

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）会議要録

- 1 日 時 令和6年9月11日（水）18時30分から20時40分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階第1、第2会議室
- 3 出席委員 市川、熊田、見城、坂井、酒井、鈴木、西田、馬場、福本、町田、宮田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 阿部、和、川鍋、山田（敬称略）
- 5 事務局 田村（事務局長）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 1名
- 7 議 事

（1）委員長挨拶

【委員長】 本日は出席いただきありがとうございます。本日は8月中に開催した地域懇談会での意見等を踏まえ、武蔵野市における地域課題や生活課題について、グループディスカッションを通して委員の皆さまより意見を出してもらいます。

（2）事務局より

事務局より、配付資料の確認を行った後、傍聴者について1名出席することを伝えた。

（3）議 事

①第2回策定委員会 会議要録確認 資料1

【委員長】 資料1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）会議要録を確認し、意見や訂正等があれば修正いたしますが、いかがでしょうか。

※委員からの意見等はなかった。

②第2回策定委員会 グループディスカッション報告資料2

【委員長】 第2回策定委員会のグループディスカッションについて、事務局より報告をお願いします。

※資料2に基づき事務局より報告した。

【委員長】 先ほどの説明に加え、私からは第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の推進委員会における計画に対する評価の中で、特にお伝えしておきたいことについてお話しします。推進委員会では、コロナ禍により予定していた計画が十分に進められなかったという意見があり、一方で、ZOOMやWebex等を用いたオンラインでのコミュニケーションツールが浸透したという意見が出ていました。コロ

ナ禍が収束した後、若年層はそのツールを使うことで新たな関係性を築くことができるようになり、引きこもりの方は外出をせずにコミュニケーションを取ることが出来るようになったことが一般的に言われています。一方で、馴染みのない方法でのコミュニケーションに戸惑う方や、画面上では相手の顔が見えにくいので使いにくいという高齢者の方も一定数いらっしゃるかと思います。そのような中、オンラインでのコミュニケーションツールを苦手とする方に対し、若年層が操作方法等を教えるような事例もあり、地域で若年層が活躍するような仕組みも出来つつあります。このような世代を超えた新しい助け合いの仕組みがあるということも念頭に置き、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）の策定に向け、話し合いが出来ればと考えています。また、コロナ禍では経済的に厳しい方が明るみになってしまったことや社会的なつながりが希薄な方がますます孤立してしまうようなことが見えてきました。そのような方が今後コロナ禍のような状況になった場合、地域の中で孤立化しない仕組みやつながりをどう作っていくのかということも改めて話し合いが出来ればと考えています。

③地域懇談会 実施報告 資料3・4・5・6

※資料3・4・5・6に基づき事務局より報告した。

【委員長】 事務局より説明があった内容を踏まえ、本日出席している策定委員の中で、実際に地域懇談会に参加された方から、是非この場で感想等があれば教えてください。

【委員】 私は西部圏域に参加しました。境南地域では普段顔を合わせている地域社協の方々との話し合いとなりました。話し合いの中で出た課題として、真新しい話は無かったものの、他の地域で出た課題を聞くことで、自らが住む地域では出なかった課題を聞くことが出来ました。今後、他地域の取り組み案を自らの住む地域で上手く取り入れることも考える中で、特に中央地域の取り組み案として「企画してくれないか」の募集は非常に面白い案だと感じました。

【委員】 私は西部圏域に参加しました。まだ委員になって何も分かっていない状況だったので、地域懇談会がどのような場なのかを知りたいと思い、参加しました。私が入ったグループでは、積極的に地域活動に参加しているベテランの方がいて、様々な意見を出していたことがとても印象的でした。また、私は東部圏域も参加しました。そこでは東部地域に参加しましたが、グループ内の人は私が

所属する東部防災会の知り合いのみでした。その中で、東部福祉の会の会長がいらっしゃったのですが、この方が以前に東部防災会の定例会の中で地域懇談会のチラシを配っており、そこで参加して欲しいという話を受けた東部防災会の方が多く参加していたようでした。このような、地域の方が周りの方へ一緒に地域のことを考えていきたいと思います働きかけることはとても素晴らしいことだと感じました。

【委員長】 誘う方が誰かということもありますが、地域の中でつながりを作るという仕組みづくりはとても大切なことだと思います。今後、第5次活動計画を策定する際、つながりを持つための仕組みづくりについても検討が出来ればと思います。

【委員】 私は西部圏域の懇談会にオブザーバーとして参加しました。グループでのやり取りを聞いていた際、日常の話を踏まえ、今後の課題を話し合っていたことがとても印象に残りました。

【委員】 私は東部圏域に参加しました。西部圏域に参加していた委員の方からも話がありましたが、参加している市民が顔見知り同士で、和やかに懇談が進んでいたように思いました。ただ、あまりにも懇談が和やかだったので、途中からグループに入り、意見を出すことにしました。そのグループで話していた課題は、「いつも話している課題だよね」というように常日頃話し合っている課題を改めて確認している印象を受けました。また、**資料6 地域懇談会 実績報告****地域ごとのまとめ**を確認したところ、例えば外国籍の方や子ども等で困っている人がいる、もしくは地域の中で取りこぼしている人がいるといった報告が書いてありますが、本当に困っている人がいるのか、本当に取りこぼしている人がいるのかこの報告書だけでは分からないと感じました。他にも報告書の中で小中学校の保護者の会である「おやじの会」を活用すると記載がありますが、本当に活用されるのかと感じ、報告書の文面も含め、何か他人事のように、当事者の意見が全く反映されていないと感じました。上から目線ではありますが、これでは当事者と地域が繋がらないのではと感じました。

【委員】 私は東部圏域と自分が住んでいる中部圏域に参加しました。私が住んでいる地域の方は既に顔見知りではありますが、グループにて話し合いを行う中で、私が障がいのある子どもがおり、地域の方々と一緒に活動をしている、私ができるような活動をしているかということ共有できていなかったと感じました。

また、事務局へ質問ですが、今回作成した地域懇談会の報告書は、参加された地域の方へフィードバックされるのかということ、参加されていない方にどのような経緯でこのような話があったということを説明する機会はあるのでしょうか。

【事務局】 参加された地域の方へのフィードバックとして、10月18日の各地域社協の代表者が集う代表者連絡会において、今回の報告書をお渡しする予定です。また、今後当会のホームページにて今回の報告書を掲載し、地域懇談会に参加されていない方にも見てもらうようにします。

【委員】 私は中部圏域に参加しました。私が住む地域では、地域懇談会のチラシについて中央福祉の会から地域住民に配られていました。私は中央福祉の会に所属していない方にもチラシを配りましたが、チラシを貰った方は少し戸惑っていました。結局その方は地域懇談会に参加しなかったのですが、地域懇談会ではいつも中央福祉の会に参加している方ばかりだったので、そのような中で地域社協に所属していない方が参加していたら、一人だけ浮いてしまっていたと思います。今後このような懇談会を設けるのであれば、誰でも気楽に参加できるような場にした方が良いのではと感じました。

【副委員長】 地域懇談会に参加された委員の皆さま、本当にお疲れ様でした。私は3圏域全てに参加しました。地域懇談会では、生活に根差した課題を踏まえ、各地域で取り組み案をまとめてもらいましたが、どの地域もスムーズにまとめていたことがとても良かったです。西部圏域では、とてもものんびりしていて、子育て世代が沢山住んでいる印象を受け、東部圏域では男女様々な方が参加しており、とても活発な意見が出ていた印象を受け、中部圏域では、男性が二人しかおらず、ほとんどが女性の参加者という印象を受けました。3圏域での話を聞き、武蔵野市は小さな地域ではあるものの、各地域で特色があることが分かり、驚きました。また、地域懇談会を通して私が思ったことをいくつかお伝えします。1つ目に、地域によって呼び名が「福祉の会」や「地域社協」などと異なり、混乱を招いてしまうことがあると感じたことです。2つ目に、特に桜野地域での話となりますが、地域社協とコミュニティセンターの運営の両方に在籍している方が多いことが課題として挙がっていたことです。3つ目に、地域社協とコミュニティセンターの丁目の分別が異なることについて、中央地域では御殿山は1丁目と2丁目で地域が分かれていることを知り、とても混乱したことで

す。4つ目に、千川地域と大野田地域では、中央公園が東京都の管轄であることを知らない人が多いかもしれないということや、千川地域では東京都立武蔵野北高等学校が避難場所として指定しているものの、千川地域から避難場所に移動する際、塀があるので迂回しないと入れないということです。様々な話を聞く中で、地域社協、コミュニティセンターおよび丁目の分け方はとても重要であるということを感じました。最後に、事務局より「資料5 地域懇談会 実施報告 3圏域のまとめ」および「資料6 地域懇談会 実績報告 地域ごとのまとめ」について作成してもらいましたが、意見が細かく抽出されており、非常に分かりやすい資料となっていると思いますので、是非地域で十分に活用してもらいたいと思います。

【委員長】 今回の地域懇談会での話をまとめると、まずは地域ごとに課題があるということ、各委員からの貴重な意見や地域懇談会で出た課題について深掘りを行うことが今後の第5次活動計画の策定において必要であること、地域懇談会自体が地域に関わりのない人が話しにくい場となっていたため、今後はよりフラットな場として話し合いができるような形を検討する必要があるということが分かりました。それを踏まえ、この後4グループに分かれ、グループディスカッションを行います。また、グループにて話し合う際には今回3圏域で行った地域懇談会の課題を踏まえ、改めて全市的な課題を考える必要があることを念頭に置いてもらい、様々な意見を出してもらいたいと思います。

④グループディスカッション（4グループ）

（グループワークを実施した後、各グループで出た意見について発表があった。詳細は「別紙 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）グループワーク報告」を参照。）

【委員長】 各グループからの発表がありました。今回出た意見を事務局にてまとめ、次回の実行委員会にてその意見を踏まえた検討が出来ればと考えていますので、よろしく願いいたします。

（4）その他

事務局より、当日配布資料に関する説明があった。

（5）次回日程

・10月2日（水）18時30分より 武蔵野商工会議所 4階 市民会議室

【委員長】 他になければ、これで第3回の策定委員会を終わります。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）
グループワーク報告

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|--|
| グループA | | | |
| 熊田 博喜 | 坂井 健司 | 鈴木 庸子 | |
| （職員）佐々木 | | | |
| <p>【外国人の子育てについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語環境にある親は、どの言語で育てるのが子どもにとって良いのか悩んでいる。 ・外国人家庭の子どもは親の言語と現地語（日本語）という、複数の言語の中で生活している。これを多言語環境と呼んでいる。多言語環境で成育する子どもが、保育園、幼稚園、学校の中で現地語である日本語が強くなり親のことばが弱くなってしまった場合に、親子のコミュニケーションが難しくなるという課題がある。 ・多言語環境で幼少期を過ごした子どもが、学齢期に達した時に、日常会話の流暢さの面では十分な日本語会話力を身に着けている場合でも、学業に必要な学習言語のレディネスが整っていない場合がある。その場合授業の理解が難しくなり、学習面の困難を抱えることがある。 ・課題に対する周囲の理解を深め、多言語環境にある子どもが両方の言語を伸ばせるような環境づくりが必要である。 ・多言語環境にいる子どもが抱える課題を知らない人は多い。課題があることを知っている人も具体的な困難さは想像しにくく、「高齢者が抱える課題」に比べてもそのリアルな困難さは伝わりにくいと言える。 ・課題があることを知ってもらい、共感の輪を広げていくことが必要である。そのための発信の工夫をどうしていくか考える必要がある。 <p>【後継者や担い手の不足について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで続けてきたものを、どのような形で次の世代に伝え、継いでいってもらえるのが課題である。以前は、商売をすることは地域とつながることとほぼ同義であったが、現在は自ら SNS など発信し他所から人を集めるなど、あり方が変わってきている。そのような中で、地域とのつながりに目を向けている人と新たに知り合うことが必要である。 ・そのためには、新しいつながりのきっかけとなる「共通のテーマ」やニーズは何かを把握し直すことが大切。趣味や好きなものと活動とをマッチングできるとよい（例：むさしの地域猫の会、武蔵野ワンワンパトロール隊など） ・活動に参加することでどのような得があるのかということも重要であり、福祉の活動を福祉のグループだけで行うのではなく、商業も巻き込んで「得をアピール」できるような仕組みを作れるといい。 ・活動は、人間の欲求を満たすような活動であることが望ましく、それが伝わる | | | |

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）
グループワーク報告

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|--|
| <p>PRが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりたいと思った時に、発信する側が諦めてしまったらそれで終わりになる。反応が返ってこないと辞めたくなるが、「つながりたい」というシグナルを出し続けなければつながることはできない。 | | | |
| <p>グループB</p> | | | |
| 酒井 陽子 | 馬場 武寛 | 町田 敏 | |
| <p>（職員）河合</p> | | | |
| <p>【人・地域との関わりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションの住民と戸建ての住民との関わりが無い。 ・隣近所との話（心の距離感がある） ・市内の多くの地域で町内会等の縛りがないことが特徴。 ⇒町内会があるのかと聞かれ、無いことで喜ぶ人と無いと地域になじめないと嘆く人がいる。 ・ごみ収集が戸別収集になったのに、結果としてつながりが無くなったと言われてしまう。⇒マンションや集合住宅では異なるが。 ・私はまだ行政には厄介にならないという方がいる。 ・地域で飲み会が無いことが寂しいという意見があった。 ⇒提案としてお祭りやみこしを小出しに進めれば良いという話をした。 <p>【地域社協について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社協の根幹は地域の方を支えることにある。⇒<u>理念が必要</u>。 ・一部の地域社協で良かった取り組みを他の地域社協にも提案する。 ・地域社協では自分達がやりたいことをやるとするのはどうか。 ・地域社協の呼び方が分かりにくいので、統一してはどうか。 ・世代交代をどうするか。 ・無事ですカードや助けてカードが1つの地域で導入したところ、とても良いとなり、他の地域でも導入した。 <p>【武蔵野市について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステータスとして武蔵野市に住むこと。 ・市の良い所⇒多くの地域で町内会がなく、自分でやりたい活動を選べること。ただ、その活動団体を探すことが困難。知らせていないから分からない。（市民活動推進課も同様。） ・市の福祉計画のスローガンがあるが、市側がそう思っているとしても市民はそう思わない。⇒自分が困ったときだけ助けて欲しいということはある。 <p>【市民社協について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協にてどう検討するかにあたり、目指すべきテーマや内容を定めるべき。 | | | |

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）
グループワーク報告

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の話をする、決まって何かをやってあげるといった考え方がちがちな。⇒お互いに支え合うという考えが弱い。 ・社協の特色を増やしていく（その中で子ども福祉や老人福祉等テーマを分けていく） ・市民社協と地域社協の違いを分かりやすくしたい。 <p>【コミセンについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミセン」という言葉が「貸しスペース」とのみ認識されることがある。⇒「コミセン」という言葉は、運営するコミュニティ協議会のことを指して使われることもあるが、一般市民の間ではコミュニティ協議会として認識されることは少ない。 ⇒コミセンで活動している利用者から「このコミセンは使いやすい」「…使いにくい」ということを言われる。 ・南町コミセンニュースを全戸配布しているが、市民からあからさまに配布を断られることがある。チラシと同一視され、趣旨が理解されていない。⇒そのため住民にポスティングを依頼している。 ⇒方法は様々あるが、アプローチをどうしていくのが良いのか。 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|-------|-------|-------|--|
| グループC | | | |
| 見城 学 | 西田 順子 | 吉田 真也 | |

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（職員）中村</p> <p>【困った時に助け合える関係性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市は町内会が全市一律にはないため、前提として「地域の人と関わりたくない」という人が多い。その中で、「地域のつながりは大事だ」と思った方々が、赤十字奉仕団や地域社協など様々な地域活動団体を立ち上げてきた。困った時に助け合える関係性は必要。 ・募金活動等に協力してくれる人は多いが、一緒に活動する側にはならない方が多い。その構造を変えていくのはなかなか難しいと体感している。 ・転入して20年ほど経つが、当初は「町内会がない」という点に魅力を感じていた。とはいえ、誰しも困った時に助けを求めたい時はある。 ・強制的に活動に参加するというよりは、機能的・効率的に関わることが武蔵野らしさなのかもしれない。 <p>【住民のニーズについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者、子育て世代など様々な立場の方に対して「どこか他人事」というのはとても共感できた。課題を挙げるのであれば、具体的に何を必要としているのか知る必要がある。 ・様々な立場の方のニーズについて、しっかりと広報されるべき。色々な人が知 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

りやすい状態になるべき。

- ・武蔵野は、地域活動団体や施設は充実していると思う。行政は住民のニーズをしっかりと吸い上げて、施策に反映させていってほしい。

【サービスへのつなぎについて】

- ・近所の方が認知症になり、地域の人が見守っていた。その後公的サービスにつながったようだが、サービスとつながってからは本人がどのような状況なのかが全く分からなくなってしまった。「地域で支え続ける仕組み」というのは難しいのではないか。行政と地域住民の協力体制をつくるなど、持続可能な地域づくりを考えていく必要がある。
- ・困っている人に対して適切なサービスを紹介するなど、その人を導くのが地域の役割だと思う。ただ、本当に困っているか、つながる必要があるかは考える必要がある。
- ・困ってからではないと情報を探さない人が多い。地域活動団体は、日頃から目に見える形で活動を広報する必要がある。

【地域活動について】

- ・日常的には必要ないかもしれないが、困った時に相談しあえる関係性を作るのが地域社協など地域の活動だと思うが、地域の諸先輩方が様々な活動をしてきた中で、働きながら使命感を持って活動していくのは現実的に難しい。65歳以上になっても働く人が増えている現在、定年退職後に一歩踏み出して地域活動に参入するのは相当ハードルが高いと思う。「無責任」と言われてしまうかもしれないが、「出入り自由」「気楽さ」をキーワードとし、定年退職後の人や働き手世代の人がライトに参加しやすい仕組みが必要。
- ・親子で参加できるイベントを開催したところ、大盛況だった。多くの人が「気軽に参加できる」というのが大切。

【活動の担い手について】

- ・地域活動をしているが、50～60代が圧倒的に少ないと感じる。それは、働き方の変容によるものだと思う。
- ・昔は専業主婦が多かったが、今は働いている人が圧倒的に多い。地域活動に誘ったが、「働いているから」という理由で断られたことがある。
- ・働きながらPTAの活動に参加したいと思ったが、会議がほぼ昼間の時間帯だったため参加できなかった。また、子どもが卒業すると、子どもと一緒に保護者も地域活動からいなくなってしまうと感じる。
- ・より多くの人に関わることができるよう、「PTA サポーターズ」を結成し、役割を細かく分けてお願いするようにした。
- ・限定的な時間で気軽にボランティアしたいという相談も多くある。地域活動団体もうまく役割分担し、やるべきことを細分化していきたい。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）
グループワーク報告

| | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|--|
| グループD | | | |
| 市川 順子 | 宮田 恵 | 福本 千晴 | |
| (職員) 林 | | | |
| <p>【地域懇談会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人の課題をどう抽出するのか。高齢や障害、子育て、外国籍など当事者の課題が見えていない。 ・地域防災などの情報弱者の方に目を向けたほうが、課題が見えやすいかもしれない。 ・高齢者の困りごとは、共通している項目が多いと思うので、理解しやすい。 ・参加人数が少ない。生の声がひろえていない。当事者団体の会合などに足を運んで意見を聞いた方が良いのではないか。 ・地域懇談会だけでは行く必要がないと思ってしまう。ハードルが高い。意識が高い人しか参加できない。 ・まとめの中におやじの会の活用とあったが、活用するものでもされるものでもない。 ・同じメンバーでは、新たな課題が入ってこない。例えば、子育て世代が集まるような場所に出向き、話を直接聞くことが大切。 ⇒上記の内容をふまえ、高齢・障害・子育てなどの当事者団体または支援をしている事業所にアンケート調査を行なってはどうかとの意見がでた。 <p>【情報発信の仕組みづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報弱者にどのように情報を届けるか(オンライン及び対面) ・オンラインの発信については、「出る杭は打たれる」のように、目立ってしまうとたたかれてしまう時代になった。そのため、やりたくなくなる人がでたりするので、気軽に声をかけられなくなる。 <p>【顔がつながる場をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割を担ってくれる人をピックアップしたり、発掘するのではなく、それぞれが動いているものを集められるような仕組みをつくる。誰もが参加できるイベントの作り方。新型コロナでなくなってしまった多様な人達の交流の場のあり方を考える。 ・そもそも担い手を探すという考えがおかしい。 ・小さなエリアで誰もが参加したくなるようなイベント(お祭りなど)、難しければ全市的な取り組みで考える。 <p>【相談機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談役は、スーパー市民ではなく、近所のおじさんやおばさんで良い。 ・子育て世代の場合は、子育ての段階(年代)など進みは同じなのでその年代によ | | | |

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）
グループワーク報告

って相談できる場があると良い。

- ・相談を受ける場所はできるだけ一本化し、相談役は市民または専門職がローテーションでまわるような仕組みが良い。
- ・相談を受ける場所-ふらっと立ち寄れるオープンな場所が欲しい(テラス席)
- ・あくまでも相談の仕組みや方法をPRするのであって、市民社協や地域社協などの団体をPRするのではない。それでは人は来ない。